

全国プロポーズの言葉コンテスト

NPO法人 地域活性化支援センター

NPO法人 地域活性化支援センター（静岡県静岡市）は、5月31日、第11回目となる「全国プロポーズの言葉コンテスト2017」を、青山セントグレース大聖堂（東京都港区）で開催した。

今回の応募総数は過去最高の6107点。最近では、女性からのプロポーズは当たり前、プロポーズに注力するカップルも増加。また、20代から30代前半の男性を中心に、プロポーズのセレモニー・イベント化が定着し、シチュエーションにこだわる男性が増えてきている。

発表は合計3部門。これからプロポーズの部（未婚者）、今だから伝えたいプロポーズの部（既婚者）、今！ここでプロポーズの部（未婚者／授賞式開場でプロポーズ）に分けられ、20組の優秀作品の内、12組が壇上で応募者自身の言葉で発表した。

最優秀賞は、当日公開プロポーズを行った、埼玉県本庄市の神山千鶴さん。付き合ってから毎月の記念日に、恋人の聖地巡りをしてきたという。これまでの思い出の写真を飾った額縁を持って登場。今までは世界で一番素敵な恋人になれるように祈ってきたが、そろそろ「夫婦」に昇格したいと、プロポーズを決意したという。

そんな神山さんの

プロポーズの言葉は、「もう、恋人の聖地巡りもやめにしない？」。これを聞いた彼は「いやです」と答え、場内は一瞬静まり返った。しかし続けて「夫婦になっても恋人でいたい。だから恋人の聖地巡りも止めない」とプロポーズを快諾、その後会場は参加者の拍手と笑顔で満たされた。

今回新たに創設した、国内の著名人カップルで結婚に対して明るい話題を提供した2人に贈られる「第1回ベストプロポーズアワード」を受賞したぺこさんがゲスト審査員として来場。恋人の聖地親善大使・婚活大使のIMALUさんは、「恋人が結ばれる瞬間を見て幸せになった。『恋人の聖地』は地域活性化にもつながるので、積極的に足を運んで地方を元気にしてほしい」と笑顔で語った。

また、恋人の聖地公認パートナー企業 認定授与式、恋人の聖地、サテライトへの銘板授与式も合わせて開催。第3回恋人の聖地 観光交流大賞2017 授与式では、観光交流大賞に南紀白浜三段壁（和歌山県白浜町）が選定された。

女性からの言葉も当たり前の時代に



▲ベストプロポーズアワードも開催